

令和 5 年度

「運営に関する計画」 最終評価

大阪市立味原小学校

令和 6 年 2 月

大阪市立味原小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校はこれまで、小規模校の特色を生かし、一人一人を大切にする教育活動の推進を学校運営の柱としてきた。少人数指導によるきめ細かい学習指導、仲間を大切にする児童を育むピア・サポート活動、平成 4 年度から先進的な取組を進めている英語活動、地域と連携して取り組んでいる運動場の全面芝生化など、他校に類を見ない特色のある取組を進めている。

これまでの取組の結果、基礎基本の学力の定着や子ども同士の良好な人間関係の構築、読書習慣の定着、地域との連携などにおいて成果が見られる。今後は、身につけた基礎的・基本的知識や技能を今以上に積極的に活用し、主体的・対話的な学習に取り組むことで、子どもたちの深い学びにつなげていきたい。そのために、それぞれの取組のさらなる深化・充実を図るとともに、効果的な指導法の研究を進めて教育活動の充実に努めたい。

長年取り組んできた英語活動においても、教科としての学習が始まったことをふまえ、コミュニケーション能力のさらなる育成に向けたフォニックス（音声指導）も継続して取り組み、中学校での学習につなげていきたいと考える。

また、令和 4 年度の校内アンケート調査で「自分の思いや考えを表現したり伝えたりすることができている」に「はい・どちらかといえばはい」と回答する児童の割合は 77.9% であり、前年度を 11.6% も下回った。今後は、表現力のさらなる向上に向けて、言語活動の充実を図る取組を進める必要がある。

令和 4 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果からは男子は「柔軟性」「投力」、女子は「筋持久力」「走力」について課題が見られた。今年度も引き続き体力向上に向けての取組を充実させるとともに、児童が主体的に運動することができるよう、校内の体育環境を整備していく。

また、一人一台学習者用端末が整備された環境を生かして ICT を活用した教育を推進し、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取組を実施していく。

中期目標**【安心・安全な教育の推進】**

- 令和 7 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまり（規則）を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 92% 以上にする。
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を令和 3 年度より 4 % 増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度の校内アンケート調査で「自分の思いや考えを表現したり伝えたりすることができている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 90% 以上にする。
- 令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における各種目別平均値が大阪市平均を上回るようにする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 7 年度の校内アンケート調査で「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 100% にする。
- ゆとりの日については、週 1 回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は 3 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 1 日以上設定する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安心・安全な教育の推進】

全市共通目標

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を70%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- 校内アンケート調査で「学校のきまり（規則）を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- 校内アンケート調査で「仲間の気持ちを思いやり優しくすることができている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

学校園の年度目標

- 校内アンケート調査で「自分の思いや考えを表現したり伝えたりすることができている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における男子「長座体前屈」「ソフトボール投げ」女子「上体起こし」「50m走」の平均値を前年度以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標

- 個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取組を実施していくために、デジタル教材や協働学習支援ツールを活用した教育活動を週1回以上実施する。
- ゆとりの日やノーカンクレッジデーを週1日以上設定し、教職員の働き方改革を推進する。

学校園の年度目標

- 校内アンケート調査で「一人一台学習者用（タブレット）端末を活用している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

全市共通目標・学校園の年度目標とともに、ほとんどの項目で目標の数値を上回ることができた。特に【安心・安全な教育の推進】での「仲間の気持ちを思いやり優しくすることができている」の項目や【学びを支える教育環境の充実】での「一人一台学習者用（タブレット）端末を活用している」の項目では17%以上目標を上回ることができた。

一方、【未来を切り拓く学力・体力の向上】での「外国語（英語）の勉強は好きですか」や「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目では目標を3~4%下回った。児童が関心・意欲をもって進んで取り組むことができるような外国語（英語）活動や運動（遊び）に関する指導の工夫が今後の課題である。

(様式2)

大阪市立味原小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安心・安全な教育の推進】	
<p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を70%以上にする。 ○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ○ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校内アンケート調査で「学校のきまり(規則)を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 ○ 校内アンケート調査で「仲間の気持ちを思いやり優しくすることができている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】 道徳の学習や各学年の行事、集会活動、校内外の体験活動等を通して、一人一人の思いや願いを大切にする仲間づくりに努める。	B
指標 様々な学習活動において、仲間の気持ちを考える機会を取り上げる。	
取組内容②【2 豊かな心の育成】 場に応じたあいさつや言葉遣いができる子どもを育てる。	B
指標 児童会によるあいさつ運動の実施、毎月の生活目標の設定をする。	
取組内容③【1 安全・安心な教育環境の実現】 校内環境の美化に関心を持ち、積極的に運動場の芝生の手入れをする子どもを育てる。	B
指標 芝生センター活動を充実させる。全校児童で芝生の世話をを行う。 (除草作業、冬芝オーバーシード作業、エアレーション等の芝生作業)	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合が72%だった。年度目標を上回った。 ○ 1月末現在の校内調査において、不登校児童の在籍比率は0.98%で前年度(R4: 1.50%)より減少した。 ○ 1月末現在の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合は変わっていない。 ○ 校内児童アンケート調査(12月調査)で「学校のきまり(規則)を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合が96%と年度目標を上回っている。 ○ 校内児童アンケート調査(12月調査)で「仲間の気持ちを思いやり優しくすることができている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合が97%と年度目標を上回っている。 	

- ① 道徳の学習だけではなく、あらゆる機会を通して自分の思いや相手の気持ちを大切にする指導を行ってきた。また、ピア・サポート活動やたてわり班活動を通して自分の思いを表現する場も設定し、意識を高められるようにしてきた。このような話合いの場を多く設けることにより、仲間を思いやる気持ちや共感する気持ちが育ってきた。
- ② 毎朝、児童会を中心にあいさつ運動が実施されており定着してきている。進んであいさつする児童も増えてきている。また、「あいさつ週間」の取り組みを実施することにより、児童のあいさつへの意識も高まった。
- ③ 美化委員会を中心に、芝生の手入れを行ってきたが、全校児童による作業は天候等により実施できなかった。芝生を大切にしようという意識はあるが、全校児童が関わる機会を作ることができなかつた。

次年度への改善点

- ・ 自分の願いや相手の思いをさらに想像・理解できるように、児童理解・仲間づくり・学級経営を教職員で共有、学習できる機会を多く設定する必要がある。また、異学年やきょうだい学級、たてわり班活動を充実させ、立場が変わったときの自分や相手の思いや願いを理解できるように指導する。
- ・ 朝のあいさつ運動は定着しているが、場に応じたあいさつや言葉遣いも自ら進んでできるように話型を提示する。また、あいさつの大切さについても、児童の意識をさらに高められるように引き続き家庭への啓発を行ったり生活目標を取り入れたりする。
- ・ 全校児童で芝生の世話ができるように、時期や形態を変えて実施する計画を立てる必要がある。また、芝生作業だけではなく、校内美化全般に目を向けて教職員の共通理解のもと、児童への意識を高める活動を計画・実施していく。

(様式2)

大阪市立味原小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 全市共通目標	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 ○ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。 	B
学校園の年度目標	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内アンケート調査で「自分の思いや考えを表現したり伝えたりすることができますいる」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 ○ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における男子「長座体前屈」「ソフトボール投げ」女子「上体起こし」「50m走」の平均値を前年度以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】 読解・記述・コミュニケーションなど多様な言語活動や表現活動を実施し、表現力の育成を図る。	B
指標 朝時間の読書タイム、読み聞かせ（おはなし会）、ゲストティーチャーによる出前授業、教材教具の工夫、芸術鑑賞等の取組を実施する。	
取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】 英語に慣れ親しむとともに、さらに英語力を高めるための活動を推進する。	B
指標 味原タイムの英語モジュール、フォニックス、英語集会を実施する。	
取組内容③【5 健やかな体の育成】 校内体育環境を整備し、主体的に楽しく運動に取り組むための活動を推進する。また、健康的な生活習慣を身に付けさせる取組や食育を進め、健康の保持増進に関する意識を高める。	B
指標 運動集会の実施、体力向上に向けた取組の充実（なわとび運動・かけ足運動等）、主体的に運動に取り組むことができる校内運動環境を整備する。健康週間の設定や健康に関する指導、栄養指導を実施する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は51%だった。年度目標を上回った。 ○ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較した結果、6年生の算数のみ0.01ポイント減少したが、3～5年生の算数、全学年の国語は0.01ポイント以上向上した。

- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は 88% だった。年度目標を上回った。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は 76% だった。年度目標を下回った。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は 67% だった。年度目標を下回った。
- 校内児童アンケート調査（12 月調査）で「自分の思いや考えを表現したり伝えたりすることができている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合が 85% と年度目標を上回っている。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における平均値が男子「長座体前屈」32.19cm (R4:29.1cm)、「ソフトボール投げ」18.14m (R4:16.2m)、女子「上体起こし」16.84 回 (R4:14.8 回)、「50m 走」9.78 秒 (R4:10.57 秒) で、前年度より全て上回っている。

①

- ・ 研究教科である国語科を中心に、各教科・領域の学習において多様な言語活動を取り入れ、自分の思いや考えを表現する機会を増やした。また、おはなし会や出前授業、芸術鑑賞会、学習発表会の実施等により様々な表現方法を学んだり体験したりすることにより、表現力の育成を図ることができた。
- ・ 読書タイムの実施や図書のバーコード化等、読書環境の充実を図ることによって、読書に親しむ児童が増えつつあるが、朝の読書タイムについては、学年や学級によって取り組みの差が見られた。

②

- ・ 味原タイムの英語モジュールを 5 時限前に設定したことでのほとんどの学年は落ち着いてモジュールに取り組むことができ、児童が楽しく英語に慣れ親しむ姿が見られたが、学年や学級によって取り組みの差が見られた。
- ・ 朝会と集会の実施回数が減ったことにより、学期に 1 回しか英語集会を開くことができなかつた。

③

- ・ 運動集会や、なわとび運動・かけ足運動等、体力向上に向けた取り組みを行い、主体的に運動に取り組む児童が増えてきた。
- ・ 健康週間や給食週間を設定し、保健指導や栄養指導、給食献立紹介など、健康に関しての様々な指導や取り組みにより、健康への意識、食への関心が高まっている。

次年度への改善点

①

- ・ 表現力のみならず、あらゆる学力については、個人差があり、個に応じた支援が必要である。今後は、個別の学習と学習の個性化を図るために、授業改善に取り組んでいく必要がある。そのため、下校後の補習時間や、教員の教材研究、研修時間等を確保していく必要がある。また、各学年の年間指導計画を見直していく。
- ・ 読書タイムの充実に向けて、朝の会以外の時間を設定したり、全校で読書の記録（読書貯金通帳など）をつける取組みを行ったりするなど、より読書活動を推進していくことができるよう工夫する。

②

- ・ 英語モジュール、フォニックスがどの学年・学級も取り組めるように、指導計画の見直しや徹底が必要である。また、教員の授業力向上を目指し、校内研修や公開授業を計画していく必要もある。

- ・ 英語集会の充実が図れるように、年度当初から、集会活動の年間計画を立てておく必要がある。
- ③
- ・ 体育学習の充実を図るため、他教科・領域、行事との関連を考慮して年間指導計画を見直す。
 - ・ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果、目標項目においては達成できているが、種目によっては大阪市の平均値を下回っている項目もある。体力テストまでの取組みや体育授業での指導内容も工夫していく必要がある。
 - ・ 健康的な生活習慣を身に付ける取り組みとして、「朝食の大切さ」についての栄養指導を実施していく。

(様式2)

大阪市立味原小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】	
全市共通目標	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取組を実施していくために、デジタル教材や協働学習支援ツールを活用した教育活動を週1回以上実施する。 ○ ゆとりの日やノー残業デーを週1日以上設定し、教職員の働き方改革を推進する。 	B
学校園の年度目標	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内アンケート調査で「一人一台学習者用（タブレット）端末を活用している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 一人一台学習者用端末を活用して学習活動を進める。 指標 デジタル教材や協働学習支援ツール、心の天気、いいとこみつけ、授業の記録等を活用する。	B
取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 行事・会議等を精選して業務のスリム化を図り、職員が働きやすい環境を整備する。 指標 ゆとりの日やノー残業デー（水曜日）を週1日以上設定・実施する。学校行事等、職員の共通理解を高めるために、校務分掌を複数人で担当し、教科領域部会を必要に応じて実施する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<ul style="list-style-type: none"> ○ 個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取組を実施していくために、デジタル教材や協働学習支援ツールを活用した教育活動を週1回以上実施した。 ○ ゆとりの日やノー残業デーを週1日以上設定し、教職員の働き方改革を推進した。 ○ 校内児童アンケート調査（12月調査）で「一人一台学習者用（タブレット）端末を用いている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合が95%と年度目標を上回っている。 <p>① 数値目標は達成されているが、全国学力・学習状況調査で「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか？」の項目にほぼ毎日と回答した児童は4.9%（全国平均28.2%、大阪府平均24.9%）で大きく下回っている。</p> <p>② SKIP連絡掲示板を効果的に活用したり、企画・立案・実施する際は、起案者が事前に意見を集約し、起案書を作成して、各校務分掌の部長、教頭、校長の決裁を得た後、実施するという形式（決裁制）を導入したりすることで、教職員全員出席の会議回数の削減、会議時間の短縮ができた。しかしながら、職員の勤務時間に差が見られたり、昨年度の時間外勤務時間より長くなったりしたことは課題である。</p>

次年度への改善点

- ・スクールライフノート活用の推進、一人一台学習者用端末活用の推進を行う。欠席児童へのオンライン学習など、全児童の学習保障を行う。SKYMENU やデジタルドリル（navima を含む）を活用し、学習履歴や学習行動記録等のデータを集積し、各児童、各学級、各学年のデータ変化を分析し、指導に生かす。
- ・教育課程の編成、カリキュラム・マネジメントの推進を行う。学校全体にかかる行事（運動会、全校遠足、学習発表会、作品展などの学校行事や、芝生開放デー、校内キャンプ、もちつき大会、ボッチャ大会などの地域行事）を充実させる。